

オゾン療法研究 ニュース

統合医療の発展にむけて

統合医療とはなにか

前回、ひびきの丘で展開される医療と、コミュニティがめざす理想の世界についてお話を聞きしましたが、今回は統合医療の意義と分類についてわかりやすく話していただきます。

統合医療ものがたり 連載 III

医療法人響きの杜 響きの杜クリニック 院長
一般社団法人 北海道統合医療協会代表理事

西 谷 雅 史

統合医療の意義と分類

アリゾナ大学の診療教授であるアンドルー・ワイル氏が、同校で「統合医学プログラム」を始めたのをきっかけに統合医療が日本でも注目され、若手の医師とセラピストで日本ホリスティック医学協会が1987年に設立されました。一方、東大の人工心臓の権威である渥美和彦教授により2008年日本統合医療学会が設立されました。前者は人間をこころとからだ全体からとらえることを主眼とし、後者は現代西洋医学の拡張としてエビデンスのある代替療法を取り入れていく立場をとっています。

統合医療を理解する前に、医学と医療の違いをしっかりととらえる必要があります。医学とは、科学に基づく知識からなる学問であり病気のメカニズムの解明が主目的になります。一方、医療とは修道院からはじまったように、人の健康の維持、回復、促進などを実現するための活動を言い、病気が真に治ることが目的です。統合医療は、この医療の原点に立った患者目線の医療で、この目線に立つと西洋、東洋にかかわらず治る可能性のある治療は何でも取り入れる医療ということになります。一方、現代医学を実践する大学や総合病院では科学的根拠を重視するため、ともすると患者さんに冷たい医療になりがちです。統合医療の課題は、この両者をいかにバランス良く組み合わせ、患者さんの利益に結びつけていくかということです。

最近、医療現場でもこのようなニーズが起きており、学生のカリキュラムに統合医療をいれる動きが出ています。私は2018年から札幌医科大学で統合医療についての授業を受け持つ幸運に恵まれ、現在は統合医療の総論と各論、そして死生学と統合医療についての講義をしています。学生は、まだ頭が柔らかく、様々なことを柔軟に受け入れられること

ができます。私は彼らが医者になったときに役立つように統合医療の萌芽が学生の心に残るような講義を心がけています。

さて、統合医療は西洋医学とそれ以外の代替医療から成り立ちますが、西洋医学には、現在の病院で行っている保険診療主体の医療と、まだ保険の効かない最先端医療が含まれます。また海外では盛んだが国内では未承認の医療もあり、なかでもオゾン療法は西洋医学的要素が強く、ホメオパシーは代替医療的要素が強くなります。従って統合医療は、うまく活用できれば、まさにオールマイティーな治療になりうるものです。

また、西洋医学と代替医療では、病気のとらえ方の違いが顕著です。西洋医学では、症状を病気の一部ととらえ症状を取り去ることが治療となるため、抗生物質、抗うつ剤、抗癌剤など“抗”的”の対抗的な治療が中心となります。一方、代替医療では、症状は身体が病気を治そうと発しているサインととらえ、自然治癒力の発揮が主体となり、症状に気づき出し切ることが治療となります。

次に、代替医療の分類を示すと、おおまかに①各国の伝統医学・医療、②現代医学に対抗的な医学体系、③広義の民間療法、④その他の心身相関療法、⑤健康食品、サプリメント類、食事療法など、に分けることが出来ます。

①の伝統医学では、中医学、アーユルベーダ、チベット医学が代表的ですが、世界各地に残るシャーマニズムも含まれます。②は、近代医学に対抗して現れた比較的新しい医療体系で、ホメオパシー、オステオパシー、カイロプラクティック、シュタイナー医学など、創始者が明らかで、独自の理論体系が確立され専門の教育機関（大学）などがあるものがあります。③は、種々雑多ですが、いずれも経験的にはその効果が認められ一定の支持者を持っているものがあります。④は、サイコセラピー的なもの、ボディワーク的なもの、エネルギー療法的なもの、五感を活用するものなどが含まれ、いわゆるセラピストによる施術の多くが含まれます。⑤は、薬として認可は受けていないが効果があるもの、民間療法、おばあちゃんの智慧などまさに玉石混交状態で、最近はインターネット情報やネットワークビジネス、マスコミも絡んでさらに複雑になっています。

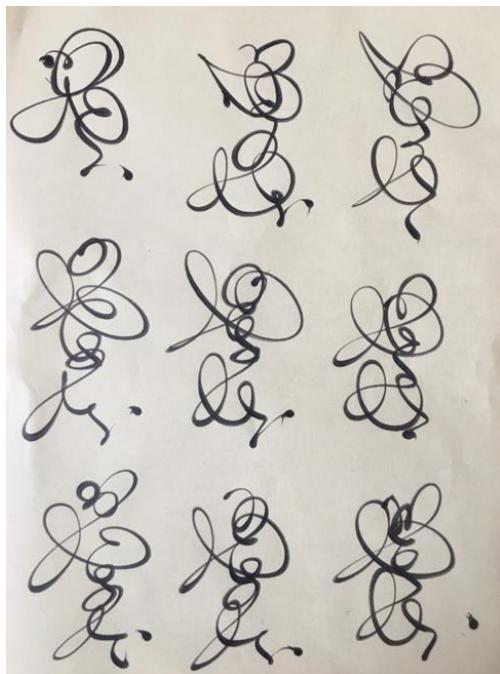
今回は代表的な代替療法としての中医学について説明します。

中医学の根本は整体観念です。整体観念では人体の臓器や組織はお互いに協調し、バランスを取ることにより一つの完成された人体を形成しておりますが、外的環境の影響を受けることにより内的環境のバランスが崩れ、自己治癒力や免疫機能が低下して、外部に疾患として出現するととらえます。その上で臓腑経絡の生理と病理を四診（望診・聞診・問診・切診）で弁証（把握）し、人体の正気の強弱、病変部位の深浅、病邪の盛衰などを総合的に論治（診断・治療）する医学理論体系です。ここで行われる八綱弁証は、陰陽五行に基づき陰陽の二元から、臓腑弁証は、五臓（心・肝・脾・肺・腎）を自然界の木・火・土・金・水に対応させて診断するもので、宇宙的な視野から人体をとらえ宇宙の法則に従って診断するまさにホロトロピック医療に当たるものです。

さて、中医学の治療には漢方、鍼、灸、按摩、気功などがありますが、本稿では当院の気功治療について紹介します。当院では2006年の開院以来、気功の本場中国の気功師と連携をしながら気功治療を積極的に導入しています。年に数回気功師が来日して気功のセミナーやセッションを開催し、年に一度患者さんたちと一緒にツアーを組み中国を訪問

し、気場の良い滞在先で毎日氣功をしながら何人もの氣功師から治療を受けています。事例の一部を紹介します。スキルス胃がん末期で緩和ケア病棟に入院中の女性が、外出許可をもらって内緒で氣功セッションを受け、みるみる元気になって食が通るようになり、本人だけでなく何も知らない主治医がびっくりした事例、ツアーワークの往路では歩けなかったパーキンソン病の患者が氣功治療後の復路では普通に歩行して帰ることができた事例、難聴がわずか数回の治療で治った事例などを経験しています。

ここで当院の専属氣功師のひとりである李秀麗師の治療の様子をご紹介します。一般に氣功治療の能力は、ある程度までは努力により習得できますが、ほとんどは生まれつきのものです。ただその能力を活用する使命を持って生まれてくるため、使命に気づかないと様々な病気やトラブルに見舞われることが多く、彼女自身若い頃に肝臓の難病にかかり西洋医学では助からないと匙を投げられたそうです。彼女は失意の中で師匠となる氣功師に出会い、弟子になることを条件に氣功治療をうけることで難病を克服しました。その過程でさまざまな能力が開花して自分の使命に気づいたといいます。そして修行により能力に磨きがかかり、現在はたくさんの難病を治癒に導いています。



李秀麗師が描いた信靈文字

彼女の施術は次の様に行われます。患者が紙に氏名と生年月日を書き彼女に渡すと、彼女は、患者の顔を見ることなく歌を口ずさみながらさらさらと紙に字を描いていきます。この字は信靈文字と言われ一般には理解不能な文字の羅列に見えますが、宇宙から降りてきた文字であり本来は誰でも描けるといいます。一通り描き終わると今度は文字の解読が始まり、そこには中国の伝統医学である陰陽五行に基づいた五臓の状態とそれに合致した漢方生薬名が記されており、現在の病気の状態とその原因、さらにその改善方法を知ることができます。不思議なのは彼女には生薬の知識が全くないにも関わらず専門家でも知らないような非常に珍しい生薬も記されていることです。また現在の病気の真の原因となった過去の出来事などが明らかにされることもあります。まるで宇宙のビックデータにアクセスして情報を下ろしているかのようです。次に施術に入りますが、彼女はからだのオーラや経絡を視覚的および体感的にはっきりととらえるこ

とができます。そしてオーラの色で生命力の状態がわかり、経絡の詰まりを映像として見ながら、問題となる部分や原因となる元の部分を治療していきます。これは表面的には、揉む、擦る、叩く、祓うなどの簡単な動作ですが、実際には浮かび上がる映像と体感から深い部分に働きかけています。患者は、緩む、心地よい、冷たい風がくるなどの気の感覚を自覚し、終了時にはからだ全体が調整され、からだが軽く楽になります。施術中もとても気持ちがよく寝てしまうこともあります。このように氣功治療の基本は、氣功師自身が患者本人の気の流れを調整し自己治癒力が發揮できるように導いていることです。

私は漢方を学ぶ中で気の世界を知り、のめり込んで行きました。そして実際に体験してみると、その効果には目を見張るものがあり事実であることがわかりました。代替医療の

多くはエビデンスがないことから非科学的とか、インチキとか言われることがあります。オゾン療法もエビデンスが出揃うまでは科学的でないとの批判がありました。しかし非科学的なのではなく科学的にはまだ解明できていない、つまり科学がまだ追いついていない分野もあることを理解する必要があると考えます。

次回は、統合医療の現状と目指すものについて考えたいと思います。